

神戈陵を渡る風

令和3年度 川辺高校 校長通信 第040号

令和4年1月28日(金)発行

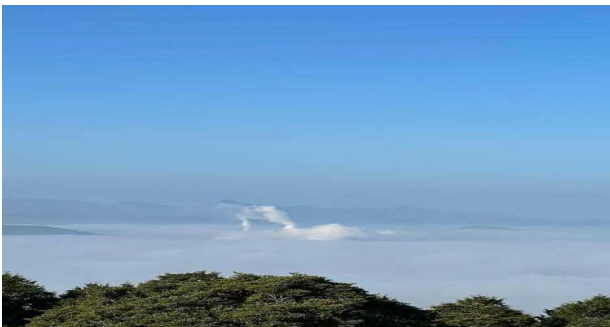
まもなく2月、旧暦の如月(きさらぎ)となりました。この呼び名の由来は、「衣更着(きさらぎ)」が転じたという説があります。衣更着は、厳しい寒さに備え重ね着をする季節(衣を更に重ねる)という意味です。まだまだ寒い日が続きます。体調管理に気をつけて下さい。ほかに、陽気が更に来る月だから「気更来(きさらぎ)」になった説や春に向けて草木が生えはじめるから「生更木(きさらぎ)」になった説もあります。礼法室の紅梅や白梅の開花、暖かい春は、すぐ近くに来ています。

冬休み校長散策2

年始



川内川の河口の左岸側近くにある柳岳。360度のパノラマが広がる山頂には奇岩「十二単(じゅうにひとえ)岩」と霧島神社があります。また、この山頂からは、この季節に『川内川あらし』という自然現象を見られることがあります。翌日の朝には、川内あらしが観測されました。



『川内川あらし』とは、九州でも2番目に大きい川内川の流域で発生した雲海(霧)が強風を伴いながら川に沿って東シナ海に流れ込む世界的にも貴重な自然現象です。柳山から川内川河口付近に下り、川内原子力

発電所の近くを通り東シナ海沿いに南下すると、いちき串木野市の羽島に着きます。ところで、薩摩藩が単独でイギリスと戦争をしたことを知っていますか(薩英戦争)?。薩摩藩は、この戦いを経験し、西洋の技術を習得しなければならぬと痛感し、19人の武士たちを選び(鹿児島中央駅の前に銅像があります)イギリスに密航留学を決行しました。イギリスに留学させた理由や経緯、「薩摩スチューデント」と呼ばれた彼らのイギリスでの動行や帰国後の活躍などを詳しく学ぶことができる「薩摩藩英国留学生記念館」があります。幕府の禁を破り1865年4月に英国に向けて密出航し、片道60日あまりの船旅はここから始まりました。



南九州の神話を尋ねて2



薩摩国一の宮といわれる新田神社は、前回紹介した可愛山稜と隣り合わせにあります。新田神社・可愛山稜(ニギノミコの御陵)の隣には、木花開耶姫(コハナサクヤヒメ)と海幸彦(ウミサヒコ)の御陵と言われる中陵・端陵もあります。



旧校歌の歌詞の出だしに「高千穂笠沙神代(かみ)より～」となっています。川辺高校に赴任した当初、なぜ高千穂という地名？ が出てくるのかとても不思議に思っていました。鹿児島県各地には、古事記や日本書紀にも出てくるような神話・伝承があり、大変興味深いです。



日本発祥の地といわれる「もしきの」史跡

瓊瓊杵尊(ニギノミコ)が天高くそびえる柱をもつ宮居を構えたといわれる笠沙宮跡が南さつま市舞敷野(むきの)にあり、「日本発祥の地」を示す記念碑もあります。この近くには、ニギノミコとコノハナサクヤヒメの子どもである3兄弟が生まれたとされる竹屋ケ尾(たかやがお)と称する山もあります。



木花開耶姫(コハナサクヤヒメ)の像

「道の駅きんぼう木花館」の隣接地に木花開耶姫(このはなさくやひめ)の像が建っています。伝説では、木花開耶姫の父である大山津見神(おおよみのかみ)は、ここ薩摩国阿多郡(鹿児島県西部)の神といわれています。



竹屋神社(加世田・たかやんじや)

木花開耶姫(このはなさくやひめ)の生んだ3兄弟のすべてを祭る鷹屋大明神があり、3兄弟の生まれる過程が焼酎造りを連想させるとして、最近「焼酎造り」の神社としても知られています。



☆礼法室横には紅梅と白梅が咲いています